大曲南中学校

校舎に「緑のカーテン」

太陽光発電で自動散水

アサガオやゴーヤーのつるや葉をネットにはわせてつくる日よけ「緑のカーテン」が、県内でも徐々に広がっている。大仙市の大曲南中学校（加賀谷孔作校長、生徒123人）でも今夏、校舎外壁が鮮やかな緑で覆われ、教室に注ぐ強い日差しを遮った。9月に入って枯れた葉も目立ってきたが、アサガオのかれんな花が今も外壁を彩っている。

見た目はよそと同じでも、同校の緑のカーテンにはちょっとした仕掛けがある。3年生の教室がある2階のベランダ。プランター20鉢が並んでいるが出入り口はなく、教室とは窓を乗り越え行き来するしかない。そこで水やりのため、ある仕組みが考案された。

「太陽光発電を使った自動散水で、うちの学校オリジナルのシステムです」。環境教育担当の島田智教諭が説明する。ベランダに太陽光パネル（縦0・5㍍、幅1・2㍍）を設置し、発電した電気をバッテリーに蓄える。校舎屋上に降った雨を雨どいを通してたらいにため、外壁に取り付けたスイッチを入れると電動ポンプが稼働。くみ上げられた水がパイプを通して各鉢に注がれる。あくまで自然の恵みの活用にこだわった。

アサガオで覆われた教室の窓。生徒がスイッチを入れると、太陽光発電システムで自動的に散水される

「化石燃料を使わなくてもこれだけのことができる。自然エネルギーの素晴らしさと二酸化炭素削減の意義を、生徒に肌で感じてほしかった」と島田教諭。初めての試みだったが、アサガオは幅16㍍、高さ5㍍のネットをつたい、最上部まで見事に育った。

教室にはエアコンがなく、窓は南向き。例年なら強い夏の日差しが容赦なく入り込むが、今年は無数の葉で遮られ、見た目も涼しく過ごせたという。1階外壁ではゴーヤーも栽培。実ったゴーヤーは、授業で生徒が天ぷらやチャンプルーに調理して味わった。

緑のカーテンを企画した生徒会の奈良知宙（ともひろ）会長（3年）は「学校の景観が良くなるし、省エネルギーや温暖化防止に役立つ。来年からは自宅でも実践してみたい」と話す。

昨年度、文部科学省の環境実践協力校に選ばれた同校。先駆的な取り組みはさらに進み、今度はペットボトルを使った超小型風力発電機の製作にも挑戦している。完成すれば発光ダイオードのイルミネーションをともし、エコ実践校をアピールする計画だ。

「エコはお得」と強調す
事アドバイザーの矢野さ

食器洗い機を使わず
ゴムべらで油汚れをごみ箱に直接落としてから、アクリルのスポンジで手洗いしてみてほしい。これで十分きれいになる。水も電気代も洗剤の使用量も、費やす時間も減り、排水をあまり汚さないのでエコにつながは。

「義務感や誰かの受け売りでやらないこと。今挙げたのはあくまで例。生活に合わせ、自分なりの工夫をすることが大前提。そうすれば、新たな発見があり、楽しくなる」

―目標を決めれば、励みった場合にやめてしまい案外続かない。工夫し、実践したことを書き留めることをお勧めする。友達同士やサークルで情報交換したり、インターネットのブログなどを使って楽しく、励まし合うのもいいと思う」

福留　功男（ふくとめ・のりお）　高知県香美市出身、明治大文学部卒。昭和41年、日本テレビに入社し、「アメリカ横断ウルトラクイズ」「ズームイン朝」な